

○松沢成文君 松沢成文でございます。今日は、オリンピック招致の問題について質問させていただきます。

まず、竹田会長、今日はありがとうございます、お忙しい中。

先ほどの質疑の中でも、今後、JOCの中に調査チームをつくってしっかりと調べていくと言っておりました。このBT社との契約書、あるいはBT社からの報告書は、この調査チームの弁護士さんたちには開示をするんですか。

○参考人（竹田恆和君） 調査委員会からどういう要望が出てくるかは分かりませんが、法人請負人ですか、が水野さんでいらっしゃいますので、水野さんの了解を得て、どこまで開示してもらおうかということになるかというふうに思います。

○松沢成文君 これ、調査チームというのは司法権限、捜査権限を持っていませんよね。JOCの中につくる、まあ自分たちでつくった機関ですよ。そこにこの契約書や報告書を開示するのであれば、これは私は国民に開示しなきゃおかしいと思います。というのは、私たち国会も国政調査権持っていますから。ですから、ここは言っておきますけれども、この調査チームに契約書や報告書を開示するのであれば、当然国民にも開示していただきたいということです。

二点目であります。

今質問がありましたけれども、東京五輪招致には約七億八千六百万のコンサルタント会社との契約料を計上しています。新聞各紙によりますと、これ十社とか十数社という数字が出ていますけれども、この守秘義務が恐らく掛かっているんでしょう。それは分かりませんが、それは内容についてであります。

どういう企業、この十社か十数社、企業名とその契約の金額について教えていただけますでしょうか。

○参考人（竹田恆和君） このことにつきましても調査チームがこれから調査をいたしますので、その辺の調査については委ねたいと思っております。

○松沢成文君 じゃ、この調査チームが調査するというのは、BT社との契約内容だけじゃなくて、全てのコンサル料あるいはコンサル会

社との契約、十数社、これを全部調査するということですね。そうであれば、これは、この調査するという事は契約内容を見なきゃ分からないわけですから、それは調査チームには全部出すということですね。

○参考人（竹田恆和君） 先ほど申し上げましたように、調査委員会がどのような調査をするのか、それは調査委員会で判断していくものだと思いますので、調査委員会がこれを調査するといったものに関して、開示できるものは開示していくことになろうと思います。ただ、そこに守秘義務がありますので、どこまで開示できるのか、それは管理されている水野さんの見解もあろうかと思えます。

○松沢成文君 これ、契約書とか報告書というのがあるんでしょうが、この中身を見ないで何を調査するんでしょうか。何にもこれ調査になりませんよね。

さあ、そこで、委員長にお願いなんですけれども、このBT社との契約書、報告書は先ほど公開するように運輸委員の方からもありました。私の方から、この十社か十数社全ての企業名と金額、これ、恐らく守秘義務が掛かっているとしてもその内容についての守秘義務ですから、企業名と金額については出せると思うんですね。これは国政調査権を使っていただいてJOCに速やかに出すように理事会で取り計らっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（石井浩郎君） 後刻理事会において協議いたします。

○松沢成文君 続いて、竹田理事長にちょっと人脈についてお伺いしたいんですけれども、竹田会長は、電通の元専務で現在東京五輪の組織委員会の理事を務めている、タカハシハルユキ氏とお読みするんだと思いますが、この高橋治之氏を知っていると思いますが、どのような関係でしょうか。大変親しいと聞いておりますが、いかがでしょうか。

○参考人（竹田恆和君） 高橋さんは私の母校の先輩であります。それと、オリンピック関係の仕事をされていましたので、そういった関係からも存じ上げておりました。

○松沢成文君 私もいろいろとちょっと調べさせていただいて、同窓でもありますし、もう竹田会長をカズと呼ぶ非常に親しい親友の間柄ということで、これまで招致委員会の活動、あるいは今の組織委員会だけではなくて、日本馬術連盟だとかあるいはFIFAワールドカップの招致委員会、こういうところでも常に御一緒に大変親しい仲だと。高橋氏がオーナーを務めるレストランでもよく竹田会長のお姿もお見

受けするというふうに聞いております。

さて、会長、この高橋氏について私は前回のこの委員会で質問をしたんです。高橋氏は、FIFAの汚職事件でスイスの検察官から尋問を受けたことがあることや、あるいは同事件において高橋氏が実質的にオーナーを務める香港の会社に裏金が送金されたと報じられていること、さらに、二〇〇二年の日韓ワールドカップでは日本招致のために八億円の工作資金を手配したことを自ら本の中で認めていることなどを指摘して、調査の上で組織委員会の理事にとどまるのはふさわしくないのではないかということも指摘させていただいたんですね。

さて、竹田会長、高橋氏がこういう疑惑を抱えている人物だということは御存じでしょうか。

○参考人（竹田恆和君） そのような疑惑を抱えているということは承知しておりません。

○松沢成文君 今回のこの疑惑のいわゆるキーパーソンというか、これはディアク氏ですよ、国際陸連。それで、その息子さんのパパマッサタ・ディアク氏が、この方がタン氏と非常に親しいというような関係の中で、このコネを使ってどうにか東京五輪招致を進めようというふうになったと思います。

まず、高橋氏と電通、ここが非常に親しい関係で連携をしているという実態は御存じでしょうか。

○参考人（竹田恆和君） 高橋氏が電通の専務を務められて、現在はOBであるという関係は存じ上げております。

○松沢成文君 電通の株主総会でも、これ電通の高田専務の方から、組織委員会とマーケティングの幾つかの作業において高橋さんにアドバイスをいただくこともありますし、我々からすることもございますと、非常に連携しているということなんですね。

次に、このディアク親子、国際陸連のディアクさんとその息子と電通、高橋氏が極めて親しい関係であるということは御存じでしょうか。

○参考人（竹田恆和君） 電通でのマーケティングの仕事をされておりましたから、国際陸上競技連盟との関わりはあったと思いますし、そういった意味では当然面識があり、そういう関係はあったということは、関係というか、その本人同士が知っていたということは想定しています。

○松沢成文君 次に、高橋氏とAMS、これはタンさんがコンサルティングをやっている会社ですね。この会社は、以前のISLという会社が潰れて、電通が最初は出資して、そして電通の海外の子会社のよ

うに様々なマーケティングビジネスをやる会社として設立した。この裏には、高橋氏がそういうふうを持っていったんですね。

そこで、IMSのコンサルティングをタンさんがやっていたということは御存じだったでしょうか。

○参考人（竹田恆和君） IMSという会社は私は存じ上げておりません。

○松沢成文君 IMSを知らないというのはどう見ても私は信じられないんですが、ここが国際陸連と、IMSのスタッフが、AMSのスタッフがILSが潰れた後に国際陸連をつくっています。そういう関係があるわけなんですけれども。

この中で、実はある雑誌の記事でありますけれども、実はそこで、高橋氏は、東京五輪招致が決定した一三年九月、アフリカ票が確保できたのは自分のおかげだと豪語していたと言われているというふうにこの雑誌は指摘をしています、こうした発言あるいはその事実を認識をしていますでしょうか。

○参考人（竹田恆和君） そのようなことは全く認識しておりません。

○松沢成文君 契約相手のタン氏について、竹田会長は本人からの売り込みや電通からの推薦や電通への確認が行われたというふうに言っていますけれども、五輪の組織委員会の理事で元電通専務の高橋氏が今回のBT社とJOCの契約の中に絡んでいた、別の言葉で言えば、竹田会長は高橋氏に相談しながらこの契約を進めたのではないかと私は拝察をするんですけれども、いかがでしょうか。

○参考人（竹田恆和君） 今、BT社とJOCとの契約とおっしゃいましたけれども、JOCは全く契約はしておりません。当時の招致委員会であります。

それと、今お話しの点ですが、このことに関しましては、事務局が幾つかの要望、希望するコンサルタントを抱えて、その中でどこに絞るかという段階で、株式会社電通と意見を聞いて最終的に決めたと。ですから、そういった意味で、高橋氏に聞いたということは全く私は聞いておりませんし、株式会社電通の推薦を受けたということしか私は聞いておりません。

○松沢成文君 高橋氏は、電通と関係が深い、そしてタン氏がコンサルタントを務めているAMSとも関係が深いわけですね。それで、高橋氏は竹田理事長とも大変親しい仲だと。

実は、オリンピックの招致に向けてIOCの委員のある意味で多数派工作ですよ、投票してもらわなきゃいけません。その中の接点に

必ずやっぱり高橋氏の存在が浮かび上がってくるんですね。彼の経験というのは大いにいい意味で生かせると思います。

ただ、最終的にもしこの渡ったお金が賄賂で使われたとしたらこの契約というのは大変なことになるわけですけども、高橋氏はこの分野で最もコネクションを持っている、まあ言い方は悪いですが、俗に言うフィクサー的な存在なんですよ。その高橋氏とこの契約、イアン・タンさんのBT社と契約を結べば、陸連の関係、ディアクさんにもつながって必ずいい方向に持っていけるということを一度も話したことも相談したこともないですか。

○参考人（竹田恆和君） 私は、このタン氏の会社のことは事務局から報告があって初めて知りました。ですから、それ以外のことは存じておりません。

○松沢成文君 ありがとうございます。

ここからはちょっと五輪担当遠藤大臣に伺いたいんですけども、今この疑惑はフランスの検察当局が捜査しているわけですね。これ、国際的なスキャンダルになってしまう可能性もゼロではないと思います。

オリンピック招致に賄賂が使われたということが判明してしまますと、これはオリンピックの招致取消しにもつながる、これはIOCの倫理規程に入っていますからね。ですから、ここをきっちり国際社会にそんなことは全くなかったということを証明できないと、私は今後大きな禍根を残すことになり得るというふうに変な心配しているんです、私はオリンピックを成功させたいと思っている一人ですから。

さあそこで、今回の疑惑についてJOCの中に調査チームをつくっても、ここは当事者なんです、第三者でもないんです。一人称、二人称、三人称があったら、第一人称です。契約の当事者だし、国際社会から疑われているんですよ。だから、例は悪いですけども、舛添さんの第三者機関と同じ、自分が弁護士選んで、頼むからいい結論出してくれとお願いしているわけですからね。

大臣、ここが大臣の出番なんですよ。オリンピックを成功させたい、そのための総合調整をするのが大臣の役目なんですよ。JOCの中に調査チームをつくって、なかなか契約書も守秘義務があって出てきませんでした、で、しゃんしゃんで終わる、こんなことをやったら国際社会から笑い物ですよ。今度のサミットでも、スポーツの汚職についてどう防止するかというのはテーマの一つなんです。

さあそこで、政府あるいは大臣の下に、この今回のコンサルティン

グ契約の疑惑についてしっかりと本当の第三者、大臣が人選するんです、成功させるために。そういう調査機関を、調査機関というか、そういう第三者機関を置いて、きちっと調査してその結果を国民のみならず全世界にきちっと我々は潔白だったとアピールできるように、それを持っていくのが五輪担当大臣の務めじゃないでしょうか。どうでしょうか。

○国務大臣（遠藤利明君） 今フランス当局の捜査についても、報道として十分承知をしております。それを受けて、竹田会長の下でJOCとしてその調査チーム、調査委員会をつくられるということですから、その調査をしっかりと見守っていきたいと思いますし、できるだけ早くその結果を待ちたいと思っております。

○委員長（石井浩郎君） 松沢君、時間が来ておりますので、おまとめください。

○松沢成文君 最後に一言だけ、質問じゃありませんけれども。

今後、ちょっと高橋氏についてはやっぱり疑惑が多過ぎます。これから、二年の組織委員会の理事の任期終わるので、調整会議というのを両大臣が入ってやるんですね、森さんも入って。そこで、やっぱりこういう疑惑の多い方は、大変失礼ですけれどもやっぱり理事は降りていただく、それぐらいのことからきちっとやっていかないと国際社会の信用は得られないと思いますよ。そのことをお願いして、私の質問を終わります。

以上です。